



BEGIN NEWSPAPER

since2002

2025 vol. 4

2026/4/11 発行

国際交流パーティー（2025.2.22）

まどかぴあ多目的ホールにて開催しました。雛人形や花などで春らしい和のしつらえをした会場に、13 か国から90名を超える参加者が集いました。日本語を学ぶ学生や技能実習生、ひょっとこ踊りの皆さんによるパフォーマンスのほか、ウガンダとブルガリアの紹介展示および物産販売も行われました。様々な国のお菓子を楽しみながら、なつかしい仲間や新しい友人との交流を深め、温かい雰囲気にもまれた会となりました。



【日本語を学ぶ学生によるパフォーマンス】

春暉国際学院の皆さんが、ネパールで学んだ空手の型や、結婚式などの祝いの場で踊るというネパールの踊り、同じく結婚式などで歌われるスリランカの歌を披露し、会場を魅了しました。



【技能実習生による歌とギター】

協同組合福岡情報ビジネスのお二人（ベトナム・インドネシア）が、ベトナムの歌と日本の友人から習ったという「海の声」を披露し、温かい拍手が送られました。



【ひょっとこ踊り】

おなじみの「日向ひょっとこ踊り 筑紫会」の皆さんのパフォーマンスの後、参加者も一緒に輪になって踊り、大いに盛り上がりました。



【展示・物産販売】

ウガンダとブルガリアの展示・物産販売では、特産品のコーヒーやバラ製品、民芸品などが注目を集めました。



国際料理教室（2026.1.18）

まどかぴあ調理実習室にて開催し、会員と日本語教室受講生・市民合わせて 25 名が参加しました。イタリア出身のカテリーナさんとカンボジア出身のナヴィーさんを講師に迎え、4つのグループに分かれて二か国の料理を学びました。和やかな雰囲気の中、参加者同士や講師との交流も深まり、食を通した国際理解の機会となりました。



イタリア料理はトマトソースのニョッキとティラミス、カンボジア料理は春雨サラダ（ミースア）と魚つみれ入りの野菜スープを調理しました。春雨サラダは、手を使ってしっかり混ぜるのが肝心ということや、ティラミスは固まるのに時間がかかることなど、実際に体験しながら学ぶことができました。

ニョッキ作りはフォークを使うやり方をカテリーナさんが実演し、参加者は熱心に見た後で実際に挑戦しました。たくさんの方が数が必要なので、人数とまな板を増やしてがんばりました。

試食の際には「違う国の料理と一緒に食べるから合うだろうか」と思っていたら、意外とバランスが取れていて良い」「スープは日本人には何となくなじみがある感じ」といった感想も聞かれ、食文化の魅力を実感するひとときとなりました。



ことばの交流ひろば

前号で活動の様子をご紹介した後も「年賀状作り」や「節分」、「日本の遊び」などをテーマに交流を行ってきました。3月には受講生が日本語でスピーチを披露し、茶話会を開いて一年の締めくくりを迎えました。

スピーチの内容は「日本に来て驚いたこと」「昨年の大野城市のスピーチコンテストに参加しての感想」「花粉症」「日本に来て困ったことやびっくりしたこと」など多岐にわたり、興味深いものでした。受講生同士が仲良くなり、茶話会も和気あいあいとした雰囲気でした。

今年度は16か国からの受講生が参加して大盛況となりました。来年度もすでに、インドネシアとカナダ出身の人が受講を希望しています。



編集後記

今年度もビギン新聞作成にあたり、行事の取材へのご協力や写真・感想のご提供など、多くのご支援をいただきまして、誠にありがとうございました。来年度もどうぞよろしくお願いいたします。（辻）

大野城市国際交流協会事務局：市役所 3 階 コミュニティ文化課内

Tel: 090-2067-3173

Fax: 092-573-7791 email: begin@city.onojo.fukuoka.jp